

交流 新しいまち

がつくる

今年、私たちが住む川西の新たな顔となるのが、「キセラ川西」。そして、新名神高速道路（仮称）川西—C（インターチェンジ）です。この2つが作り出す人の交流が、新しいまちをつくっていきます。キセラ川西について詳しくは地区推進課 ☎（740）1203へ。



せせらぎ遊歩道

猪名川から引いた水が流れる小川には、さまざまな生き物たちが生息しています。ホタルの餌となるカワニナもたくさん見つかり、ホタルを飛ばすため、今いる生き物の観察や見分け方を学んでいます。写真はワークショップの一場面。



ステージ

イベント開催時、メインとなるステージ。音楽イベントや、トークショーなど、活用の幅が広がります。

キセラ川西せせらぎ公園 完成予想図

里庭エリア

菊炭の原材料となる、台場クヌギや若いクヌギを黒川から移植。若いクヌギは、桜の森で育てられていたものです。黒川自治会や菊炭友の会、キセラ川西まちづくり大使の西畠清順さんと一緒に、準備を進めてきました。（移植イベントの詳細は8ページ）



里山に鎮座する台場クヌギ

プレーパーク

子どもが自由に遊び方を考え、作り出すプレーパーク。キセラ川西せせらぎ公園でも実施する方法を検討しています。ボール遊びが禁止されるなど、安全のために制限のある公園が多くありますが、おとなが距離をとって見守ることで、子どもの自主性を伸ばし生き生きと遊べる場所になることをめざしています。



プレーパークで作った秘密基地のイメージ

防災機能

地震などの災害時に一時避難地として広場を利用できます。また、マンホールトイレや、飲料水、生活用水を地下に貯めておく機能もあります。

エドヒガン

シンボルツリー以外にもエドヒガンを移植します。能勢電鉄(株)、(独法)水資源機構一庫ダム管理所、溪のサクラを守る会、川西ロータリークラブなどの団体からも、エドヒガンを譲り受けました。

シンボルツリー

黒川に自生する桜の木「エドヒガン」を公園のシンボルとして移植。桜は川西市の市木でもあります。



2年以上前から根巻をして移植の準備を進める

思い描く公園の姿

キセラ川西市民プログラムワークショップの各チーム・プロジェクトで活動するメンバーの声を紹介します。



自然チーム

黒川地区から移植するクヌギを見守り、里庭に育つ草本の観察や、生育しやすく工夫された水路での生物観察などに取り組んでいく予定です。都市の中に作る自然には時間と手入れが必要。自然と人工のバランスを取り、誰もが楽しめる場所にしたいです。



三浦泰幹さん

ホタル復活プロジェクト

市街地からほど近い公園で、いろいろな生き物が見つかることに驚きました。今後、生息する生物の変化を追うのが楽しみです。ホタルの復活は最初の目標。公園の自然をきっかけに、市内全域の自然にも関心が広がればいいと思います。



木下ゆき子さん
朝陽くん

のんびり地域活性チーム

「行けば何かがある」と多世代が気軽に集まる場所にと考えています。見守る市民の目がたくさんあれば、子どもも安心して遊べる公園になりますから。公園と周辺の豊かな自然をつなぎ、のんびりとした時を楽しむ散歩モデルコースを提案しています。



輔信捷三さん

遊びチーム

子どもが外で元気に遊べる場所が少ないと、以前から思っていました。プレーパークは子どもが自由に遊んで体験できる場所。おとなが押し付けるのではなく、子どもに任せて遊べるように、定期的に関わっていききたいです。



三善知子さん

イベントチーム

こんなことができるんだ、という見本になるようなイベントを企画しています。皆さんもどんどんいろんなイベントを企画して、発表の場として使ってほしいですね。この公園でのイベントが、利用者同士の交流の場になればと思います。



小杉大介さん

コンシェルジュチーム

ワークショップに参加して、公園への愛着が湧いてきました。市街地から近いのに、多くの機能を備えた公園はとても貴重だと思います。公園マネジメントを勉強しながら、市とイベント企画者とのつなぎ役としてサポートしていきたいです。



盛岡諄平さん

は「自然」「ホタル復活プロジェクト」「のんびり地域活性」「遊び」「イベント」「コンシェルジュ」の6つのテーマでチームに分かれて、検討を重ねています。多くの機能を兼ね備えた公園を、いろいろな視点で使いこなす企画が進行しています。利用者の皆さんが主役となつて交流したり、自然とふれあったり、ワークショップに参加したりするなど、この公園との関わり方は自由です。キセラ川西せせらぎ公園を万全の状態で開催させるため、夏の利用開始に向けて、準備を進めています。

阪急・能勢電鉄「川西能勢口」駅から北へ徒歩約8分。火打、中央町周辺で整備事業が進む地区「キセラ川西」では、医療・住居・集客施設を含んだまちづくりを進めています。中心にある約2・6畧のキセラ川西せせらぎ公園は全国的にも珍しく、PFI方式を採用しています。民間の力を活用して整備することで、造るだけでなく、多くの人が愛着を持ち、市民が成長させる公園をめざしています。23年から市民参加のワークショップを開催し、アイデアや意見を公園づくりに反映。現在

新たに誕生する「キセラ川西せせらぎ公園」

関わり方は自由です

中心市街地のすぐ近くで整備が進む新しいまち「キセラ川西」。中心となる公園が29年夏、ついにオープンします。ここから新しい交流を始めませんか。

未来

につなぐための
スタートライン

まちをつくり、動かすのはいつの時代も人。今年動き出す新しいまちも、たくさんの人の手があつてこそ、これからも残していきたいまちになります。

ガイドラインを3月に策定 自由に使うための ルール作り

夏のオープンに先駆けて、市民が自由に活動するためのガイドラインが完成します。
新しい公園をあなたらしく使ってみませんか？

自由に活動できる公園のために

キセラ川西せせらぎ公園の完成後、どのような使い方ができるのでしょうか。

公園の使い方をルール化した「キセラ川西せせらぎ公園利用ガイドライン」を、3月上旬に市ホームページなどで公開。公園内でできること、できないことなどを紹介します。

ガイドラインは、条例により公園で禁止されていることを、許可を得ることのできるようにするためのルール。さまざまな使い方の可能性を高めるものです。

例えば、フリーマーケットやコンサート、展示会、プレーパークなど、公園を訪れる人が笑顔になれるような、さまざまな使い方ができるようになります。

1年間は使用料が無料に

このように同公園では、市民の皆さんが主体となり、公園の一部、または全体を利用して活動できるようになります。公園全体を使えば、何千人規模のイベントを行うことも可能。また、使用するエリアを選ぶこともできます。

使用料は、オープンから1年の間は試行期間として免除されます。詳しい申請の方法やスケジュールは、ガイドラインで案内します。

同公園での過ごし方は、あなた次第でどこまでも広がります。

オープン前のキセラ川西せせらぎ公園を体感

日本一の里山から受け継ぐ キセラ川西せせらぎ公園のシンボル

キセラ川西移植イベント
公園に黒川地区の樹木をみんなで移植しよう

- | | | |
|---|-----------------------|-------------------------------------|
| 1 | 1月13日(金)
午前10時—正午 | @黒川公民館
「台場クヌギ掘り取り見学」 |
| 2 | 1月22日(日)
午前10時半—正午 | @キセラ川西せせらぎ公園
「シンボルツリー『エドヒガン』の植付」 |
| 3 | 1月24日(火)
午後2時—3時 | @キセラ川西せせらぎ公園
「台場クヌギ植付見学」 |

黒川地区で大切に育てられてきた、エドヒガンと台場クヌギの移植の瞬間に立ち会ってみませんか。①②には、キセラ川西まちづくり大使でありプラントハンターとして活躍している西畠清順さんも参加します。参加希望者は、参加希望日、氏名、電話番号かメールアドレスを、1月10日(火)正午までに電話(740)1203かファクス(740)1330、メール kawa0191@city.kawanishi.lg.jp で地区推進課へ。③は申し込み不要、当日会場へ。



そら植物園株式会社 代表取締役
西畠 清順 さん

子どもたちが主体的に遊ぶ “プレーパーク”とは

青少年フォーラム「プレーパークを知る—子ども・若者の遊びと新しいまち。せせらぎ公園オープン前に考える」

- | | |
|---------------------------|-----------|
| 1月28日(出)
午後1時—4時（正午開場） | @アステ市民プラザ |
|---------------------------|-----------|

全国でプレーパーク作りに携わってきた須永力さんを招いての講演会とパネルディスカッション、希望者にはキセラ川西せせらぎ公園の現地見学会（先着30人）へ案内します。参加希望者は、参加人数、現地見学会の参加人数、住所、氏名、電話番号を、1月20日(金)までに電話(740)1246かファクス(740)1339、メール kawa0168@city.kawanishi.lg.jp でこども・若者政策課へ。



一般社団法人
「プレーワーカーズ」代表理事
須永力 さん

あんなに
をまち
かわにし

新名神高速道路開通で川西 IC がオープン

新 玄関口 から始まる 交流

今秋の開通をめざす新名神高速道路（高槻～川西間）。ICのオープンによる交流人口拡大に期待が高まっています。詳しくは道路整備課 ☎(740)1183 へ。

※川西 IC と高槻 JCT は仮称

川西 IC 付近（28年11月撮影）

名古屋市中心から神戸市まで、約174キロを結ぶ新名神高速道路。現在、川西IC（インターチェンジ）を含む、高槻JCT（ジャンクション）～神戸JCTの工事が進んでいます。

28年4月に発生した新名神有馬川橋工事の事故を受け、安全対策を確実にするため計画が見直されました。高槻JCT～川西ICは今年秋ごろ、川西IC～神戸JCTは29年度末の開通をめざしています。

開通すると川西から京都まで、約30分で移動が可能に。京都の観光地へも、アクセスしやすくなります。

通過点となることが多いIC。しかし、部分開通で運用される約半年間は、高速道路の終点になります。市を訪れるたくさんの人に、市の魅力を知ってもらえるよう、PRしていきます。

また、ICから近い立地を生かして、ビジネスや観光、産業振興などを目的に開発や建築ができるように、周辺の土地利用計画を27年に策定。地域の活性化をめざしています。

新しい玄関口の完成が新しい交流のきっかけとなり、魅力あるまちづくりの一助となります。

市民目線での公園の利活用

毎日、何か
起きていることが重要

キセラ川西市民プログラムワークショップで講師を務める武田重昭さん。どんな公園にしていくなのか、参加者と一緒に考えています。

「公園を活用するのに大切なのは、何千人が参加する大きなイベントだけではありません。人と人の出会いや、ちょっとした発見など、日常的な出来事も大切なイベント。ほとんど毎日、何か起きていることが重要なです」せせらぎ公園に行けば何かに出会える、そんな公園になるように、ワークショップではアイデアを出し合っ活動をしています。

公園が存在することで発揮される「存在価値」、人が利用することで発揮される「利用価値」に加えて、公園にはもうひとつ必要な価値があるそうです。

「公園の外で発揮される『媒介価値』がこれからのまちづくりには重要だと考えています。例えば、公園が身近にあることで感じられる安心感



大阪府立大学大学院
生命環境科学研究科
助教 武田重昭さん

や、公園での出会いをきっかけに育まれるコミュニティなどです。近隣に住む人だけでなく、市内外から人が訪れることでその価値が高まり、市全体の魅力アップにつながります」

ガイドラインの作成でも、市民の目線から考えるようにしています。

「今年のガイドラインは『試行版』となっているのがポイント。1年たった時に見直しができる仕組みなんです。公園は完成してからがスタート。使用する市民の声を聞き、柔軟にルールを変化していくことで誰もが使いやすい公園になります。成熟した公園は、ルールがなくてもうまく使われています。せせらぎ公園もいずれそうなればいいと思います」

公園を使うことが、市民一人ひとりによる、魅力あるまちづくりの第一歩になります。

「新名神高速道路の開通をきっかけに、市外から訪れる人が増えれば、もっと魅力が高まります。完成後にぜひせせらぎ公園に来てほしいですね」

